

010

農業体験に防災普及・啓発を組み込み、地域のレジリエンスを高めるイベント実施

取組主体

株式会社つなぐファーム

従業員数

想定災害

実施地域

4人

全般

千葉県

- ・「防災×農業×再エネ」をテーマにイベントを企画・開催。サツマイモの収穫体験とともに、元消防士を招き、災害時の火の取り扱いに関する適切な対処法などを学ぶ。

1 取組の概要

住民参加型の農業 x 防災 x エネルギーを掛け合わせたイベント

- ・株式会社つなぐファームは、農業と太陽光発電を同時に行う「営農型太陽光発電」を実践しながら住民参加型のイベントを実施し、エネルギーと食糧を地域で生み出すとともに地域の人々に体験してもらうことで地域のレジリエンスを高めていく取組をしている。
- ・月に1~2回の頻度で、農業を中心としたイベントを実施。2023年11月には「防災×農業×再エネ」をテーマに、千葉市の「営農型太陽光発電所」（上部に太陽光発電パネルを設置し、電力の自給自足を行う畑）である「千葉県大木戸アグリ・エナジー1号機」および近隣キャンプ施設「さくらキャンプ」にて、住民参加型のサツマイモの収穫体験を行った。そこに元消防士を招き、紙芝居による防災学習や、消火器などの防災器具の体験、火事の現場での実際の対処法をワークショップ形式で参加者へ伝えた。



畑の上に太陽光パネルが設置されている
「営農型太陽光発電」

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

難しいテーマを楽しく学ぶ仕掛け

- ・農業経営、防災、エネルギー等の最初の入口が難しいとされるテーマを「楽しく学べる」ようにするために、子どもにもわかるような言葉や方法を採用している。また、取組やワードを説明するだけでなく、五感を使って体験・体感してもらうプログラムを企画している。
- ・例えば、実際に営農型太陽光発電の設備の下の畑で収穫体験をしてもらい、「畑の上に太陽光パネルがある」という条件を実際に体験するイベントを開催したり、収穫した農作物を参加者がその場で食べられるプログラムを入れ込むなど、企画段階から工夫している。



焼き芋づくり体験で、楽しく学ぶ仕掛けを作る

3 取組の効果

地域レジリエンスの向上

- ・収穫や焼き芋作りなど子どもが楽しめる要素や生活にかかせない「食」という体験の中に「防災」を組み込むことは、潜在的に子どもたちに「防災」意識を持ってもらうきっかけになったと感じる。
- ・「食」という入りやすい間口で参加いただき、元消防士による「正しい防災」を紙芝居という理解しやすい形で学び、そして、その内容をその場で体験(消火器を使った消火訓練など)する機会を提供することによって、知識だけではなく身体全体で「防災」を意識してもらえたと考えている。



紙芝居での説明

4 取組への想い

度重なる災害の発生と自助知識の普及

- ・同社の所在地である千葉市緑区大木戸町は、2019年房総半島台風の際に倒木被害の影響で8日間の停電を経験し、2023年9月8日には台風13号による記録的大雨にも見舞われた。その際、同社のグループ会社である千葉エコ・工

国土強靱化

ネルギー株式会社の太陽光発電設備は、売電用のため電気を取り出せない設計になっており、地域住民の力になれないことを歯がゆく感じた。これがきっかけで、防災・減災の意識をより一層高める必要があると感じ、完全自家消費型の太陽光発電設備の新規導入に至った。

- ・自然災害の発生率は世界的に大幅に上がっているにも関わらず、消防団や災害時に活動するために結成されている自主防災組織の人数は激減している。30年以内に発生する確率が70%と言われている「南海トラフ地震」や「首都直下型地震」「富士山噴火」などが起きた事を考えると、最悪の状況が想像されるため、災害時は自分達で活動できる知識が必須と考えている。
- ・「防災」は重要だが優先度が下げられがちという現実があるため、まずは同社が率先して「防災」の普及啓発活動に取り組み、体現していくべきだと考え、今回農業体験に防災普及・啓発プログラムを組み込んだワークショップイベントを企画した。

5 防災・減災以外の効果

関係人口の増加

- ・イベント参加者による同社の取組へのコミュニティの形成、さらにはコラボしていく地域の企業とのコミュニティ形成も強固になり、農村を起点としたコミュニティが生まれてきている。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・農村地域ではまだまだ小さなコミュニティが各地に点在して、それぞれに活動しているが、地域全体やさらなる大きなコミュニティにつなげるように今後も支援したい。
- ・家庭や地域を巻き込んで子ども達を農村全体で育てる地域コミュニティの創造が、地域レジリエンスを強くすると考えている。そのために、まずは今回のような防災普及・啓発ワークショップイベントを定期的を開催することによって、参加者同士のつながりからさらなるコミュニティを巻き込んでいけるような仕組みづくりをしていきたい。
- ・最終的には自然災害の際の地域のレジリエンス向上、あるいは農村のサステナビリティを高めるようなモデルケースとなり、他地域へも広げていきたいと考えている。

7 周囲の声

- ・「大人2人での参加だったが、参加した他の子どもたちと一緒に約20年振りの芋掘りを存分に楽しみ、改めて防災の心構えについて一から学ぶことができた。防災は知識としてだけでなく、実際火災が起きた時に具体的にどう動くのかを体験でき、自分の中だけでなく、周りの方々にも同じように伝えなくてはならないことだと感じている。今回このイベントに参加した事は非常に大きな収穫となった。」（イベント参加者）

担当者の声

- ・防災という問題を考えていくと自ずと地域におけるコミュニティをどうしていくのかという問題に直面することになると思います。私たちは都市近郊である千葉市の農村地域でどのような取組ができるかと日々試行錯誤をしています。他地域にとって参考となるような事例となるべく、今後とも「防災」普及・啓発活動を実践し、励んでいきたいと考えております。

問合せ先

株式会社つなぐファーム 法人番号：3040001103497
電話番号：043-301-6998 FAX：043-301-6122
E-Mail：info@tsunagufarm.com URL：https://www.tsunagufarm.com/

動画



サイトURL

